

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	4年度
事業名	ファミリーサポート支援事業費	担当課	福祉課
事業内容（簡潔に）	子育ての援助を受けたい者（依頼会員）と提供したい者（預かり会員）との相互援助活動において、依頼会員の利用料を半額助成する。		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	夢を持ち明日を担う人材を育むまちづくり	
	政策	子と親をまるごと育むまちづくり	
	施策	子育て支援の充実	
関連する個別計画等	韮崎市子ども・子育て支援事業計画	根拠条例等	韮崎市ファミリー・サポート・センター事業利用助成金交付要綱

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	子育ての援助を受けたい者（依頼会員）と提供したい者（預かり会員）を登録し、安心して働くことができる環境づくりを支援するファミリーサポート事業において、利用料の半額を助成することにより、利用者（依頼会員）の負担軽減を図る。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> ファミリーサポート事業の利用者（依頼会員）の利用料の半額を助成（申請により・月額上限 30,000 円） 【補助金等】国 子ども・子育て支援交付金 1/3 県 地域子ども・子育て支援事業費補助金 1/3 《ファミリーサポート事業》 ファミリー・サポート・センター（子育て支援センター内）において、アドバイザーが依頼会員と預かり会員の仲介を行う。 利用料は会員相互にやり取りする。 利用料；平日 7時～19時 700円/時 上記以外 800円/時 *きょうだいの場合、託児者1名に対し2人目の託児から半額 預かり会員は、援助活動報告書をアドバイザーを通じて提出
事業の対象	韮崎市在住の生後3か月から小学校6年生までの子どもを持つ保護者で、当該支援を必要としている者

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		元年度	2年度	3年度
財 源 内 訳	A 事業費 (千円)	1,067	723	1,110
	国・県支出金	860	480	1,062
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	207	243	48
B 担当職員数(職員E) (人)	0.1	0.1	0.1	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	672	657	659	
D 総事業費(A+C) (千円)	1,739	1,380	1,769	
主な事業費用の説明	ファミリーサポート利用助成金 ※令和2年度事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う費用減			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)、3年度(6,582千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
活動指標	1 会員数(人)	依頼会員 協力会員 両方会員 計	363 46 17 426	376 39 23 438	390 41 25 456
	2 利用者数(人)	延利用者数	1,453	722	907
	3 助成人数(人) 助成額(千円)	延助成人数 利用助成金額	368 1,067	233 723	288 1,110
妥当性		<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明	1	協力会員及び両方会員数はほぼ横ばいで推移しているため、援助するマンパワーは維持されている。			
	2	2年度は、コロナの影響により延利用者数及び助成人数とも減少しているが、3年度は増加傾向にあるとともに、依頼会員の登録は増加していることから、支援を必要と考える人は増加している。			
	3	利用料の助成を行うことにより、支援を必要とする人の経済的負担を軽減することで、援助が受けやすくなる。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	平均利用回数(回) 延利用者数/依頼会員 907人/390人	4.0	1.9	2.3
	2	1人当たりの助成額(円) 利用助成金額/延助成人数 1,110千円/288人	2,899	3,103	3,854
	3	援助実施率(%) 延利用者数/依頼申込件数 907人/907人	99.9	100.0	100.0
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	2年度はコロナで落ち込んだが、回復してきた。			
	2	助成額が増えたので、利用者の負担減になった。			
	3	元年度は2件の定期的な習い事への送迎等の援助申し込みがあったが、趣旨が異なるため、援助を受けることができないケースだった。本来の緊急的援助依頼については、各年度依頼を受けることができています。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)				
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)				
	令和4年度の改善計画(今後の事業展開説明) 引続き、ファミリーサポート事業の利用者に対する利用料の助成を実施する。 なお、協力会員が高齢化していることから、新たな登録者を増やすため、子育てボランティアの養成講座と共催でファミリーサポーター養成講座を開催することで、子育てボランティアから協力会員に繋げるとともに、保育所や幼稚園、小学校の1日入学時等で周知を図り、制度の普及・啓発に努める。				
過去の改善経過	改善の経過	平成19年4月 ファミリー・サポート・センター開設(子育て支援センター内に事務局設置:当時藤井保育園) 平成23年9月 子育て支援センター指定管理者NPO法人ちびっこはうすへ運営を移行 平成25年4月 助成金の上限を月額30,000円とする。			
		内部評価	2年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
	直近の評価結果	評価時の改善案	引続き、ファミリーサポート事業の利用者に対する利用料の助成を実施する。 なお、協力会員が不足傾向にあるので、啓発活動に努める。		
		外部評価	2年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
評価時の改善案	子育てボランティアの養成講座と共催でファミリーサポーター養成講座を開催することで、子育てボランティアから協力会員に繋げるとともに、保育所や幼稚園、小学校の1日入学時等で周知を図り、制度の普及・啓発に努めました。				
課長所見	子育て世代の経済的な負担軽減を図るため、事業継続が妥当である。				